

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年7月29日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから7月29日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、8月3日の（3）1相開放故障事象に対する担当者レベルの技術的意見交換ということですが、今回第2回とありますけれども、初回は2年前の8月にやったもので、こういう故障事象に対処しなければいけないわけですが、この故障を検知して自動で切り替えるという技術の開発が進んだことを受けまして、実機でその検証を行った結果というのがATENA（原子力エネルギー協議会）から報告される予定です。

次が、8月5日の（4）第1065回審査会合です。

議題は3つで、いずれも地震・津波関係でありまして、1つ目が、東通の地震動評価についてということで、これは震源を特定せずの関係で、前回4月11日の続きということのようです。

2つ目は、浜岡の敷地の地質構造についてということで、これも前回6月10日のコメントへの回答などということのようです。

3つ目が、泊の地震動評価についてということで、これも震源を特定せずの関係で、前回5月27日のコメントへの回答などということのようです。

次が、8月8日の（5）核燃料施設等のほうの審査会合です。

議題は、日本原燃の再処理施設の設工認ということで、申請書の1回目の補正が出てきたということのようなので、それを受けまして、今後詰めていくべきの事項の確認などを行うということのようです。

次が、8月9日の（6）国立研究開発法人審議会のQST（量子科学技術研究開発機構）の部会ということになります。

これは、前回、7月7日の同じQST部会をやっているとして、あと、先週22日の委員会で、QSTの次期中長期目標策定に向けた見直しというのを議論しましたが、それに引き続いてのものということになります。

議題は3つで、1つ目が、昨年度の業績評価で、2つ目が、中長期目標期間、これは今年度までの7年ですが、その間の業績評価の見込みということと、あとは次期中長

期目標期間に向けた業務組織の見直しといったような点になります。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

では、エンドウさん、お願いします。

○記者 共同通信のエンドウです。お疲れさまです。

ちょっとずれてしまうかもしれませんが、本日、日本原燃の増田社長が、青森のほうの会見で、再処理工場について、今年の上半期を予定していたのが、2～3ヶ月以上遅れるような趣旨の発言をされました。審査のほうもなかなか停滞状態というようなお話もあり、これに関しての受け止めをお願いしたい。

○黒川総務課長 報道は見ていますけれども、中身を直接聞いたわけではないので、直接のコメントは控えたいと思いますけれども、委員長からも、これまでも再三野心的な目標ですよねという形で、そのスケジュールは難しいのではないかというのはおっしゃってきたところだと思いますので、そういう見直しも進められているのかなとは思っています。

○記者 今後の審査について求めることがあれば。

○黒川総務課長 審査、これまでなかなか進んでいなかったようなところがありますので、体制を整えていただいて、こちらもしっかり対応して審査を進めていくということに尽きるのだと思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

では、ヤマダさん、お願いします。

○記者 改めてなのですけれども、新潟日報のヤマダです。

今日も新規制基準の審査会合をやっていますけれども、柏崎刈羽の地震動の関係の評価についての議題が挙がっていますが、これはどういう位置付けかというのを改めて教えていただければと。

○黒川総務課長 その中身まで詳しくお答えできる状態ではないので、中身、詳しく応えられるほど、今は知らないです。

○記者 何について。

○司会 広報室長、村田です。

これは第3電源に関するところの設置許可の変更が出ている部分だと思いますので、その変更を踏まえた中身として、地震動について改めて確認をするということだと思っています。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—